

KBFニュースレター

第4号

NPO法人 九州バイオマスフォーラム

〒869-2232 熊本県阿蘇市赤水字大堀 695-10 TEL 0967-35-1128 FAX 0967-35-1151
http://www.biomassml.com/kyushu.html kbf@aso.ne.jp 平成19年2月 KBF事務局発行

☀️ご挨拶



新しい年を迎え、皆さま益々ご健勝の事と存じます。

活動をはじめて4年目に入った昨年、本当にたくさんの方が起きました。中でも、阿蘇市がNEDOの委託事業である「バイオマス利用地域システム化実験事業」のモデル地域に選ばれたことは、KBFの活動や構成に大きな変化を与えました。KBFが当初から提唱していた「草をエネルギーに」という構想が、実現に向けて大きく動き出したのです！設立当初、「いつか草をエネルギーとしてつかえたらいいのに」と夢物語のように語っていたことが昨日の事のように思い出されますが、プラントが3月には完成する予定です。未利用の草地から野草を集める、という重要なタスクを背負ったKBF。天候によって多少の遅れはありますが、冬の枯れ草を順調に集めている最中です。春になりましたら、ぜひ皆さまも運転を開始したプラントを見にいらしてください。

また昨年11月には、1年半もかけてつくりあげたストローベイルハウスが完成いたしました。今年は、南阿蘇バイオマスセンターとして活用できるよう、南阿蘇村と協議中です。活用方法の一つとして、南阿蘇村で発生する廃食油をBDFにする拠点づくりを検討しております。

このように、今年もまた力強い前進を続けていけそうな明るいニュースが多いのですが、なにぶんNPOという体質上、「できる人ができる事をする」ということが大前提となります。会員の皆さまにつきましては、口も手も出しながら会の運営や活動に参加して下さるよう、お願い申し上げます。最後になりましたが、本年もどうぞ宜しくお願いいたします。皆さまの益々のご健勝とご活躍をお祈りしております。

吉田 愛梨

🌻藤井絢子さんの講演会が開催されました

KBFも加盟している「菜の花を愛するくまもとネットワーク」の主催で、「菜の花プロジェクト」代表の藤井絢子さんの講演会が昨年10月に熊本県立大学で開催されました。藤井さんは、琵琶湖の環境保全のために日本初の環境問題に取り組む環境生協を設立し、その後「菜の花プロジェクト」をスタートさせ、今も菜

の花による資源循環型社会を目指して活動されています。当日は、菜の花から作った「なたね油」で揚げたポテトチップスや、フェアトレードのコーヒーのお茶交流タイムもあり、会場内はよい香りに包まれていました。資源循環を身近な地域で実践することや、景観保全からBDFまで菜の花の持つ可能性についてお話いただきました。約100名の参加者があり、会場は盛況でした。



🔦 エコテク / 2006 / バイオマス・ニッポン in 九州が開催されました

昨年 11 月 21 ~ 24 日に福岡県北九州市内で、エコテクノ 2006 が開催されました。KBF はブース展示で活動を紹介し、22 日に九州バイオマスタウン・シンポジウムを主催しました。

シンポジウムでは、九州農政局企画調整室長の松井氏より「バイオマスタウンの現状について」と題し、農水省で現在取り組んでいる概要についての報告がありました。

その後、バイオマスのマテリアル利用の事例発表が行われました。一つは「身近な地域資源をお金に変える方法」と題し、「葉っぱビジネス」と称してマスコミでも話題になった(株)いりどりの横石氏の講演がありました。上勝町は昭和 56 年に大寒波に襲われ、町の特産であるみかん等農業に大打撃を受けました。この窮地の中、始まったのがいりどり事業です。これは町の山野で採れる紅葉や柿の葉をツマモノとして料亭へ卸すというものです。作業は軽作業で高齢者にもできることから、お年寄りが元気になり、寝たきりの人がいなくなったことで、介護施設がなくなったそうです。事業を軌道にのせるために仕組み作りはもちろんのこと、住民へやる気を起こさせるために F A X を使って働きかけを行ったそうです。地域資源をどうすれば有効に使えるかという問いに対して、資源を使う場面、仕組み、利用、価値を作り上げることが重要であるということをお話されました。また、地域資源を活かすためには仕組みづくりだけでなく、地域住民の意識改革まで行うことが重要であるというお話でした。横石さんの力強いお話に参加者は聞き入っていました。

徳島県上勝町役場の吉積氏は「上勝町の木質チップボイラーと地域通貨を使った循環の仕組みづくり」という講演をされました。上勝町は町の 8 割以上が山林で、林業の衰退により山の手入れが行き届かなくなり、山が荒れてきています。そこで、住民に町内の木材を収集場所へ持ち込んでもらい、木材の量に応じて地域通貨と交換し、収集した木材は町内の温泉施設の燃料として使用します。交換した地域通貨は買い物や温泉に利用することができます。バイオマスの収集運搬に地域通貨を組み合わせた事業モデルについてお話いただきました。

最後に、KBF 理事長吉田愛梨の司会で、パネルディスカッションが行われました。パネリストは前述の方々に加え、(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所の柚山氏、バイオマス産業社会ネットワークの副理事長の岡田氏、大木町役場環境課施設推進係長の堺氏でした。

討論の中では、「バイオマスのマテリアル利用として重要・必要なことについて、女性の視点(消費者、生活者としての視点)からバイオマスを考えていくことが大切である」、「地域が元気になるように住民の意識が変わるような仕組みを作ること」等の意見が出ました。KBF ではこのようなイベントを通じてバイオマスについての啓発活動をこれからも続けて行きたいと考えています。



🌿 第3回 阿蘇市バイオマスセミナーを開催しました



メタン発酵の技術によって生ごみや家畜排泄物からバイオガスエネルギーを取り出し、処理の際に出る消化液も液肥として活用する方法等を紹介する講演会を、2006 年 12 月 20 日に大阿蘇環境センター未来館で開催しました。

講演では、山鹿市鹿本総合支所産業振興課課長の柘原栄一氏が「山鹿市のメタン発酵施設による地域循環型のまちづくり」と題して『山鹿市バイオマスセンター』の特徴・事業効果などを紹介され、次に九州東海大学農学部の片野學教授がメタン発酵消化液の散布による水稲への生育、収量、品質に及ぼす影響について試験した結果を発表されました。試験から、生育への影響はなく、穂肥として施用した場合、増収することがわかり、メタン発酵消化液は穂肥として有効であるということでした。

その後 KBF 主任研究員の中坊真が「生ごみのメタン発酵による経費節減効果の試算」と題し、阿蘇市で稼働中のゴミ固形燃料(RDF)化施設の燃料費用削減と、これまで処理費用がかかっていた RDF 有価物として販売できる可能性について発表し、参加者のメタン発酵技術への関心が集まりました。

「草本系バイオマスエネルギー活用システム実験事業」が本格的に稼動!

NEDO から阿蘇市が委託を受けたこの事業は、バイオマスエネルギーの導入促進を図るために、地域の特性に応じた収集・運搬の仕組みづくりからエネルギー転換及び利用に至るまでの総合的なデータの収集・分析を行い、バイオマスエネルギーの地域循環型社会実現に資することを目的としています。

KBF では、地形図や航空写真、標高データなどを総合的に解析できる GIS というソフトウェアを利用して、牧野内で未利用の草地を判別しました。また、実際に牧野の現地調査や組合員の方へのヒアリングなどから、最終的な採草可能地を算出しました。2007 年 1 月上旬に、車帰牧野において新規導入されたトラクター(フェント製「バリオ」、クボタ製「パワーローラー」)に、採草用のモア・集草用のレーキ・梱包用のロールベラーを装着し、一連の作業のデモンストレーションを行いました。また一方で、各牧野組合との業務委託契約を進めているところです。ガス化発電プラントは 12 月から工事が始まり、3 月中に竣工予定です。これまで野焼きで燃やされていた草原の野草をエネルギーに変換することで、CO₂ の削減と草原景観の保全を目指して努力していきます。



採草：パワーローラー+モア



集草：バリオ+ツインレーキ



梱包：パワーローラー+ロールベラー



ロールを保管するテント倉庫



山口県で稼働中の同系のプラント



アセリア21の工事状況 (1/19)

日本エネルギー学会 バイオマス科学会議で発表



2007 年 1 月 16～17 日広島大学において第 2 回バイオマス科学会議が開催されました。口頭発表では KBF の中坊主任研究員が「草本系バイオマスの収集運搬システム」について発表を行い、草本系バイオマスの特徴を中心に阿蘇で取り組んでいる NEDO 事業について紹介をしました。また、清島研究員がポスターで「GIS を用いた資源管理～熊本県阿蘇市の事例～」の発表をしました。GIS を用いることで牧野内で使われていない草地面積と実際に利用できる草地面積とを算出した結果について紹介しました。全国的にも珍しい取り組みであることから、注目を集めました。

📖 カナダに学ぶバイオマス利用システム

日時：3月19日(月)予定
バイオマス国際シンポジウム
「カナダに学ぶバイオマス利活用システム」
会場:熊本国際交流会館（予定）
主催:JETRO 熊本、
九州バイオマスフォーラム
KBF の中坊主任研究員が、エネルギー作物栽培の先進地カナダへ視察に行きます。カナダで感じたバイオマスの未来への可能性を帰国後に報告予定です。

🔔 これからの予定

2月下旬
第4回 阿蘇市バイオマスセミナー

3月19日(予定)
「カナダに学ぶ
バイオマス利活用システム」
(熊本市)

主に重機類のメンテナンスを担当します。時には牧野に向かい採草作業も手伝います。



中村 親一

主に集草を担当しております。その前は青年海外協力隊で、アフリカ・ブルキナファソ国にて植林隊員として活動していました。よろしくお願ひします。



影沢 裕之

中村さんと同様、重機類のメンテナンスを担当します。集草作業や運搬作業も手伝います。



小野 国光

GISの解析やプレゼン用ポスター制作などパソコン作業を2006年秋から手伝ってきました。本業は誰かの思いをwebを通じて形にすることです。



井芹 大悟

新スタッフ紹介

NEDO 事業をサポートするために新たに KBF にかわったスタッフを紹介します！

牧野地図の解析を行っている吉田です。少しでも早く覚えるよう努力中です。よろしくお願ひします。



吉田 園子

バイオマスを広める活動に参加しませんか？

KBF ではバイオマスの地域循環型社会を実現するために活動しています。私たちをサポートしていただける個人・団体会員を募集中です。

- 正会員……………1口 ￥12,000
- 個人賛助会員……………1口 ￥3,000
- 団体賛助会員……………1口 ￥20,000
- 学生ボランティア会員…………… 無料

入会ご希望の方は九州バイオマスフォーラム事務局までお問い合わせ下さい。

事務局 電話:0967-35-1128 メール:kbf@aso.ne.jp

編集後記

昨年の発行から、早半年近く…。申し訳ないです。スタッフが増えて、事務所は賑やかになり、会報も発行することができました。今後、より充実した内容になるよう頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。(清島)

初めて会報発行のお手伝いをさせていただきました。今まで何気に見ていた色んなものが、より新鮮に見えます。もっと KBF に役立てるよう頑張ります。(吉田)